

ザンビア：過去最大のコレラの集団予防接種キャンペーンを開始

コレラの流行が確認されているザンビアの首都ルサカで、国境なき医師団 (MSF) は 4 月 9 日、50 万人以上を対象とした過去最大規模となる経口コレラワクチンの集団接種を開始した。コレラは市内の人口過密地区で 2 月から発生しており、4 月 7 日までに報告された症例は 664 件、死亡例は 12 件に上る。予防接種はザンビア保健省および世界保健機関 (WHO) と密接に連携し、2 週間にわたって行われる予定。

洪水により汚染水が流れ込み流行が拡大

ルサカではコレラの流行により、2003～2010 年の間に 3 万人が感染し、860 人が亡くなっている。MSF 緊急対応コーディネーターのカロリーヌ・ヴートは「ルサカではこれまでも再三コレラの集団感染が発生しているものの、前回の流行は 2010 年まで遡ります。長い間隔が空いたことから、人びとにはコレラへの免疫が全くと言っていいほどありません。そのため、洪水が起こりやすく人口が密集しているこの場所に、コレラ感染の“隙”が生まれてしまったのです」と説明する。

ルサカでは約 120 万人が“非公式居住区”に暮らしており、雨期のたびにコレラのリスクにさらされる。2016 年は雨期が遅れたことで打ち込み井戸が枯渇したため、住民は無防備な浅井戸の利用を余儀なくされた。雨期が到来すると、満杯の掘り込み式トイレに洪水が流れ込み、汚染水の流れや水たまりをつくっていた。人びとはその中を移動せざるを得なかったため、大規模なコレラ流行に理想的な環境となってしまった。

患者の治療、健康教育なども同時に行うことが重要

今回の集団予防接種の対象は 57 万 8000 人。MSF 外国人スタッフ 8 人、ザンビア保健省スタッフ 19 人、ルサカの地元ボランティア 1135 人が、市内でも特に影響の深刻なカニヤマ、パウレニ、ジョージ、チャワマの 4 地区合計 39 か所で展開する。

これと並行し、保健省は市内のコレラ治療センターで患者の治療を続ける予定で、家屋の消毒、健康教育、消毒液の配布による非公式居住区の衛生条件改善にも努めていく。

「コレラワクチンの接種は感染抑止の効果を期待できますが、それが唯一の対策ではありません。必ず、患者の治療や健康教育と組み合わせられるべきです。同時に、給排水・衛生活動を徹底し、今後の感染リスクを低減する必要もあります」とヴートは話す。

経口コレラワクチンについて



経口コレラワクチンは、コレラの感染制御の新たな手段になりつつあり、複雑な緊急状況下での流行予防や、コレラが風土病となっている国々での感染抑止および疾病負荷の軽減に成果を上げてきた。このワクチンは通常、2回接種が推奨されている。ただ、ワクチンの世界的な流通量に限りがある中で、ルサカの流行をいち早く押しとどめるため、1回接種を2倍の数の対象者に提供する方が、“集団免疫”を速やかに最大化できると考えられる。

MSFは1999年にザンビアで活動を開始。北部州ルウイング郡のリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）の活動は2013年に保健省へと引き継いだ。コレラ対策は7年にわたり共同で運営してきた。今回MSFは2016年3月に現地入りし、流行の制御と集団予防接種の実践について保健省およびWHOへの支援を開始した。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press